

新曲の譜読み段階における習熟の研究

山田 啓 明*, 上田 泰 子**, 竹村 佳 子**,
遠山 真**, 藤井 裕 子**, 細木 千 裕**

(キーワード: 初見, 視奏, ソルフェージュ)

はじめに

平成13年度から新たに大学院で『ソルフェージュ研究』を立ち上げた。この授業ではまず学生達自身が抱えるソルフェージュ上の苦手な点を探してもらい、そこに潜む能力的・技術的問題や克服法を発表し、皆で討議するという形をとったが、それらのなかで興味深い現象が疑問の形でピアノを専攻とする学生達から報告された。

彼等の疑問は「レッスンの伴奏等の際、初見の時はなんとか弾けているのに、日をおいて2度目の時は初見の時と比べて下手になっているように感じるのはどういう訳か」というものであった。同様の経験はこれまでもしばしばピアノを弾く者の間で聞かれてはいたが、それが単に主観的なものであるのか、それとも客観的に認められることなのかは今まで特に確かめたことはなかった(今回は関連する文献にあたっただけではないことをあらかじめ断っておく)。以下はその疑問を解き明かすべく、学生達と共同で行った実験と分析の記録である。

実験とその方法

平成14年1月16日, 18日, 22日と日を空けて3回行われた実験の方法は以下のとおりである。

初日に被験者は短いピアノ曲(の一部)を1曲選んで初見で3回とおす。

2日後(その間、被験者は楽譜を見ていない)、同じ曲を再び3回とおす。

さらにその4日後、また同じ曲を3回とおす。

実験の間隔が1日, 3日となったことは、学生が集合できる日によつたため特に理由はない。

都合9回の演奏をビデオに撮影して被験者ごとに編集し、後日皆で上達の程度を確かめる。なお、毎回3回とおした後に被験者にインタビューを行うとともに居合わせた他の観察者(被験者は同時に他の被験者の実験の観察者でもある)からの意見も聴取した。

被験者(受講生)5名と実験で用いた曲は以下のとおりである。曲は各学生の初見視奏のレベルに応じて学生自身に選んでもらった。

上田泰子: ピアノ専攻。他大学の学部を卒業。
Bartók 作曲《for children》vol. 1 より No. 31, Boosey & Howkes, p.31

竹村佳子: ピアノ専攻。音大のピアノ科を卒業。
Clementi 作曲 Sonate Op. 40 Nr. 2 冒頭～32小節, Clementi, Klaviersonaten Auswahl Bd.II, G. Henle Verlag, p.91

遠山真: 指揮専攻。音大の音楽科を卒業して現職の音楽教員。
Tschaiowsky 作曲《Jugend-Album》Op. 39 より No.1 《Walzer》冒頭～53小節, Edition Peters, pp.12-13

藤井裕子: 音楽専攻。音大の音楽科を卒業。
Haydn 作曲 Capriccio G-dur Hob. XVII / 1 冒頭～32小節, Haydn, Klavierstücke Eibner/Jarecki 編, Wiener Urtext Edition, 音楽之友社, p. 1

細木千裕: クラリネット専攻。本学学部をクラリネット専攻で卒業。
Clementi 作曲 Sonate WO 14 第2楽章冒頭～62小節, Clementi, Klaviersonaten Auswahl Bd.I, G. Henle Verlag, pp.4-5

実験初日: 平成14年1月16日

被験者1: 上田泰子

山田: 1回目は落ち着いてなかったようだね。

上田: バルトークということで、(最初)長調なのか短調なのかもよくわかんなかった。(音が)結構飛ぶし、シンコペーションがあったりで、それで結構惑わされました。臨時記号も多いしアレっと思いがながら…1回目, 2回目, 3回目とも違っちゃったか

*鳴門教育大学芸術系(音楽)教育講座
**鳴門教育大学大学院学校教育研究科

も…

山田：自分の出来としてはどんな感じ？やっぱり3回目が一番いいかな。

上田：はい。

山田：緊張感は1回目が1番あったかな？

上田：緊張感がある分…なんか変に緊張してて、飛ぶ所とかがつかめない。

山田：じゃあミスタッチとかも結構やってたんだ。

上田：物凄いです。

被験者2：細木千裕

山田：どうでしたか、やった感じは？今はどういふシチュエーションのつもりで弾いてた？止まらずに、弾き直したりせずにはずうと弾いてたけど普段から心掛けるの？

細木：弾き直していいんなら弾き直すけど、今は撮ってるからって言うのがあるので。

山田：どう？1回目、2回目、3回目…？

細木：1回目で「あっ」と思って…2回目でちょっと気分的に立て直すんですけど、できない所にくると「ああ」ってめげるんですけど、なんか3回目では大分開き直って…。

山田：気持ちの問題が大きいのかな？単に見れるとか弾けるとかいうよりも気持ちが落ち着いて、気持ちその状態に入っていってたら…。

細木：手がそこに行っていない時にふっと不安感が生じるんですけど、1小節でも弾けるとちょっと安心…。

山田：他には？

細木：ほんとに（調号は）ファの#だけなのにないつもなんかドの#が入っちゃって…なかなかその（曲の）調号にないものが入っちゃって、私の場合。

山田：上田さんとの違いは目の配り方がやっぱり上田さんはピアノに慣れている気がする。細木さんは鍵盤に目が行ってから弾いてるんじゃないかって、弾いてから目が行っている感じがあったかな。

被験者3：藤井裕子

藤井：1回目は見るのが精一杯なので（譜面の）形が違ってくともう手が全然ついていけない…あとフェルマータとかがあるとその分（後が）見られるから、フェルマータの後にはちょっと落ち着けました。それから今から見てみれば16分音符の同じ音形が4回続くんですけど（見る）余裕がなくて…指使いも見れたらスムーズに行くんだろうけど見る余裕がなくてその分自分が弾きやすい手に行ってしまうので…

山田：あまり鍵盤は見てなかったかな？鍵盤を見なきゃ弾けないような所はあまりなかった？

藤井：あんまり。跳躍も1オクターヴだったんで…

山田：（手元を見ていた学生に）手はどうだった？跳躍とか何とか…特徴はありました？

竹村：（鍵盤を）探ってるんだけど目では見てない…

山田：指で探り弾きをやったんだ。なるほどね、そうじゃないかと思った。目が（譜面から）ほとんど離れないからね。彼女の面白いのは弾き直しをとるところやってたよね、それはいいとしてそれ以上に僕が興味があったのは、ほんとに弾けなくて止まってしまう箇所もあったけど、弾けない所でテンポをぐっと遅くするよね。細木さんの場合は弾けない所は弾き飛ばしていくっていうやり方だったけれども弾く時の感じ方が違うんだろうね。それぞれに長所、短所があると思います。

被験者4：竹村佳子

山田：やっぱりさすがとというか、3回弾く内に上達してくるのは1番だったかな？

竹村：ウソが多い。

山田：でもウソもテクニックの内みたいな所もあるよね。最初と2回目…3回目はそうでもなかったけど、意外とフレーズの切れ目で心が切れる？

竹村：あー。意識はしてないけれど、弾けない…音は鳴ってなくても、頭の中で「あー、こういう音なんだ…って音楽が…ってくるのかな？て感じ。

山田：フレーズを弾いてる時に、（フレーズの）流れの中では次の事を考えてるんだけど、（フレーズが）終わった後の次ってとこで目の動きというか、一瞬そこで呼吸がそこで止まっているのよね。意外とレチタティーヴォの伴奏とか苦手じゃない？

竹村：はい。苦手です。

山田：流れで弾いてないと頭が流れてないみたいな…フレーズが止まった時に次のフレーズを考える時間があるはずなのに考えてないって感じがしました。

藤井：手で探ってて迷ったら私なんか絶対手が浮いちゃって音が出ないのに、迷っててもすぐ手がどうにでもなって音が弾ける…

山田：それ、正しい音を弾いてる？それとも間違った音でもとりあえず叩いちゃう、て感じだった？見た感じ…

藤井：見た感じ合ってるだろうな…（笑）

竹村：ウソも多い…（笑）

山田：ピアノの場合打楽器的などともあるから伴奏を弾いたりする場合、とりあえずなにか弾かなきゃいけない、てことはあるよね。

被験者5：遠山真

山田：どうでしたか、やってみた感じは。

遠山：最初の方は素敵なお曲だなと思ったんですけど、途中で短調になった所から自分の感性に全然合わなくて…なんか奇妙な曲だなあと。

山田：最初はえらい安全運転だったね。なにもあそこまでしなくても。3回目は良くなったんだけど、無駄な目配りが多いね。見なくていいところでいちいち鍵盤を見てる。後半だんだんペダルも工夫し始めた？あと1回目、2回目、3回目の違いはどうでした？

遠山：1回目はどんな曲かなあという感じで、2回目はちょっと素敵なお曲かなあという感じ。あと前半は素敵なお曲かなあという感じ。

山田：曲はいいんだけど自分自身の中でどういう状態？

遠山：アーティキュレーションを工夫しようかなあと。

山田：と思ったのはいつ？

遠山：2回目位。

実験第2回目：1月18日

被験者1：上田泰子

山田：どうだった？

上田：1回目は思い出すのに精一杯。

山田：思い出すのに精一杯っていうけど、思い出すって作業と楽譜を見るって作業は両立するの？

上田：楽譜を見て、追ってる内に「あ～思い出して来たぞ」って感じ。

藤井：2回目と3回目は全然ちがいました。

山田：どういう風に違った？

藤井：何だろ。精神的にもそうだし、ピアノの上達度というか…。

上田：やはり3回目の方が何となく余裕が出て来た…。

山田：(上田に)あなたって暗譜が得意な方？

上田：いいえ。

山田：弾く時はあんまり楽譜を見ないでむしろ鍵盤を見ながら弾くのが好きなタイプなのかな？

上田：えーと…楽譜は見ないですね。

山田：だんだん鍵盤をよく見るようになってきて、鍵盤を見ながら弾く時間が増えてきてるな。細木さん、なんかない？

細木：だんだん落ち着いて…

上田：いや、もう頭が働かなくてどーしようかと思った(笑)。指も上がらなくて…

山田：もう、パニックってたね。テンポは前回より速くない？

上田：速くしました。

山田：速くした。あれは最初からちょっと意識して速くしてみたの？それともわかんないうちに速くなって、1回目速かったから仕方なく2回目3回目とも速くしたの？

上田：1回目は結構ゆっくりめに弾いたつもり…なんですけど。

山田：そう？(みんなに)どうだった？パッと聴いた感じでは前回より速かったという気がしたんだけど。

上田：1回目はちょっと…

山田：あ、少し流れを…

上田：…て見ようかなと思って…失敗しちゃったんですけど。

被験者2：細木千裕

山田：どうでしたか。

細木：前回よりかは落ち着いて、パニックにならずに弾けました。

山田：他に何か…。

細木：他に…16分音符が1番細かい音符なんですけど、それはちょっと見えるように…前は(16分音符は)並んでるだけで、何の音かはあんまり見えてなかったんですけど、それが見えるようになりました。あと3度(で重なった音形のこと?)が見えるようになりました。

山田：見えるようになるってのは結構大きいよね。なぜか視界に入ってんだけど見えてないってことはよくあるよね。他にみんな何か気が付いたことはない？

藤井：横から見て、間違わずにスムーズに行くところはちゃんと楽譜に目の動きがちゃんとついて行ってるんだけど、止まる所っていうのは必ず…例えば左がつまったら右手だけしか見てなかったり、楽譜にかじりついてるだけで、間違っ所に目が行ってない。

細木：ああ、そうです。

山田：ひとつ考えられるのが…初見の鉄則というか…(楽譜の)右手のどこを見るんじゃなくて下の段(左手)の方を見て弾けていうのがあるのね。細木さんの場合どうしても上の段の方に目がいつちゃってるんじゃないかな。どう？自分の感じとしては。気をつけてた？

細木：全然。

山田：思い出せない？

細木：間違えると、右手だけでもつなごうと思って右手(のパート)を見るんですよ。

山田：こないだよりテンポは少し遅くなかった？

細木：あ、遅かったと思います。

山田：それは意識して？

細木：いえ、意識してなかったんですけど、1回目の時に「タ、タン」と弾いて「あ、速～」と思ってそれからちょっとゆっくりになりました。

山田：上田さん、(さっき弾いた時は)どうだった？

上田：…（楽譜が）見える範囲が全然ちがうというか…。

山田：1発目で。いや3回目は絶対…完全にうまくなっていたのは分かるけど。初見の1発目でもやっぱり前回の1回目よりは…

上田：えーと記憶でいけるところがあるから、その時間は違う所を見れる。

山田：みんなもそういう感じだった？（上田さんを見てると…だけ指が浮いてた感じがするんだけど、最初…

上田：それは…朝だから（笑）。

被験者3：藤井裕子

山田：どうでした？

藤井：この16分音符のところはずーっと気になって、3日前に弾いた時にすごい頭の中に残ってたので、この前つまったからここだけは間違わないようにしようと思って。

山田：最後の終わりのとこ？「ラシドレミファソララ…」

藤井：でも朝なので頭が…

山田：ああ、頭が回っていない…初見の感じとしては？まあ前回よりはずっと…いいよなあ、やっぱな。

藤井：…。

山田：そう、あんまり自覚はない。自分としてはもっとうまく行くはずなのにって感じ？

藤井：うーん、なんかでもまだ…楽譜が…私は見れてないから。

山田：まあ、程度問題ではあるんだろうけれども…（みんなに）どうなんだろう？ひとつには、やっぱり2回目なんだからこの位できるはずだって言う自分のなんか期待があって、それに沿えないからできないように感じるんであって、客観的に見れば1回目より2回目の方がやっぱり弾けてるんじゃないかな？それから目の配り方が前回より随分良くなったけれども、それも別に意識はしてない…？

藤井：それは自分で思いました。

山田：前回は（スタイルが）わかんないまま楽譜を弾いていたのが（今回は）「3拍子なんだな、ブンチャッチャッ」というのが掴めて弾けてきてるかな…今日は曲の雰囲気が出て来てたよね。

細木：前は弾き直すところもあったんですけど、今回はそこを捨ててでも弾こうとしていた…それは意識的にやっていた？

藤井：（首を振って）ちゃんと目がついて行っていたんで、止まらなくても（左右の手の）どっちかが（楽譜を）追えていた。

山田：そうね。だから細木さんの弾き方に近くなってたよね。それはやはりこの3拍子というスタイル、

流れっていうのを自分の中に掴んで来て…それを大事にしようってのが無意識にどこか働いてるんじゃないかな。

被験者4：竹村佳子

竹村：1回目に rit. に見えてた所が2回目に見ると rinforzando だった。

山田：なるほど。

竹村：1回目は音楽的には（楽譜が）あまり見えないんだけど、集中しているから音の間違いというのは少なかった。2回目からちょっと、音のミスがあった。

山田：どう？初めて弾いた時と今日の1回目と比べて、自分の感じとして。

竹村：こないだの2回目位の感じ。

山田：じゃあ自覚的には、最初の初めて弾いた時よりはやっぱり楽？

竹村：はい。

山田：竹村さんは上田さんと比べて…上田さんはどんどん目が楽譜から離れてゆくんだけれども、竹村さんは全然離れないね。鍵盤と楽譜、どちらを見ればいいんだろうかと迷ってない？（竹村うなづく）鍵盤を見た方がうまくいくだろうに…と思ったところで、なんか鍵盤を見ることを怖がってる…。

竹村：この間先生がおっしゃった、フレーズの先が見られてない…それが…。

山田：それが頭にひっかかって…。

竹村：自分自身が楽譜の先を読むっていうことが…先先っていうのができてないんじゃないかなと。

山田：テンポがだんだん上がっていったよね。意識してた？

竹村：いや、してないですけど、自覚はあったんですけど。

山田：とくにやろうと思ってやった訳じゃない？

竹村：アガってたって言った方がいいのかな。

山田：全体的に？1回目～3回目でそのアガり方に違いつてのはあった？全般的にずうっとアガりっぱなしだった？

竹村：3回目の方が…だんだんアガってきた気がします。

山田：それは弾きながら…それも面白いね。落ち着いていくのかと思ったら、回数を重ねるごとにアガってくる…

竹村：後半に、こういうフォルテ2つとか rinforzando とか…だんだん目に入ってくればるほど…。

山田：今の話を聴いて思い出したけれど、ミスが心の動揺にひびくのは竹村さんが1番かな。ミスが少ない分、余計目立ってこともあるんだけど。細木さんなんていちいち反応できんもんな。

細木：いや、心の中では「ん」とかなんかなってるんですけど、ほんとにいちいちかまってるられない。

山田：竹村さんの曲は曲だけに1回（音を）はずしてもその後取り戻せる曲だね。目に入らなくなるってことはあんまりないだろうから。ただ（竹村さんは）1回ミスった時の心の動揺を結構ひきずるんじゃない？（竹村うなずく）で、それがあって…だからその…「あ、しまった」ってのが尾を引いてアガってきたってのがある…？

竹村：あー（しきりにうなずく）

山田：3回続けて間違っ「あーしまったあーしまったあーしまった」ってとこがあったでしょ。

竹村：3回目…かな

山田：いや、なんか…DかDisかなんか弾いて、1回目あの和音のとり間違いを2回目で修正したよね。「あ、うまくいったな」と思ったんだけどその後のところが2回目も間違っし3回全部間違っったと思うんだけど。で、そこで動揺が広がっていったんじゃないかと思う。

竹村：あー、はい、そうです。あの…視界に遠山さんの「え？」という顔が…（笑）

被験者5：遠山 真

山田：どうでした？

遠山：前にやったときはとにかくミスタッチがないようにゆっくりのテンポでしようとおもったんですけど、今日は、まあVivaceと書いてあるのでもうちょっと…

山田：もうちょっと音楽的な事を…

遠山：はい。それと、指番号を楽譜に忠実に弾こうかなあと…でもそれが逆に…（笑）墓穴を掘ってしまったかと…もうちょっとテンポを上げたいんですけど

山田：自分の事前のイメージと比較して「もうちょっとうまく行くはずだ」という感じがあった？それでもない？

遠山：いや、もっとうまく弾きたいなあという…ワルツの感じで…もっとうまく弾きたいなあという気持ちはあるんですけど、指がついていかないんです。

山田：なるほどね。いわゆる曲のイメージっていうのができてきて、「こう弾きたい」からむしろうまく弾けないように感じちゃうってのがあるのかもね。で、1回目（1日目）はイメージがないから弾き通しちゃうけど、その後頭の中に「この曲はこういう曲なんだな」というのがだんだん出来上がってくると、今度はイメージの方に手が追いついていかないっていうのがあるのかな。（みんなに）他に何かない？

藤井：もしかしたら違うかもしれないんですけど、目の動きが遠山さんの場合はスムーズに楽譜と鍵盤と見れてたと思うんですけど、手が浮いて、音が（手を鍵盤の上に）置いてるのにそこを弾かない状態が多分1ヶ所かどこかあったんですよ。そのときちゃんと左手を見てるはずなのに、手も構えてるはずなのに、音が出ない。

山田：手がそこまで行ってるんだけど、弾いてない。

藤井：行ってるんだけど、音が出ない。間違っ音も出ない…そんな状態はどういうことなのかなと考えてたんですけど…わからない。

遠山：あれは音をはずしたんです。

山田：（藤井に）でも見た感じでははずしてなかったんでしょう？じゃあはずしたと思って本人は（鍵盤を）おさえなかったんだ。ああ。そういうところが何ヶ所かあった…。

藤井：いえ、1ヶ所だけ。

山田：まあ、あるよね。「あ、しまった」って思った時。手がそこに行っても弾かないってことがね。そう、目の配り方は非常にいいね。遠山さんはこっちから見てても。それは思いました。あと、前回は物凄く自信なさげに弾いてたけど今日はずいぶん落ち着いて…まず、その精神状態っていうのが前回と比べて全然ちがって余裕みたいのが最初感じられた。それはあります？

遠山：前回は、とにかくミスタッチのないように…今回はミスタッチを恐れずに。

山田：そうね。それはあったよね。だからやっぱ曲のイメージってのが出て来てた…だから前回は「なんでペダルをそんなにずーと踏みっぱなしにしてんだろう」と思いながら聴いてたけど、そこらへんもちょっと考えてやってみました？他には？

上田：いままでの人は、この前の3回目と比べたら（今日の）1回目はちょっとさがってるかなあといったような気がしてたんですけど、遠山さんはあてはまらないなあ。（笑）

山田：そうね。その日その日の調子もあるだろうしね。朝早くてはダメとかね。

竹村：だんだん堂々としてこれられました。手の上げ具合とか…すごく分かったんですけど、動作が大きくなって。でも（手を）上げる分だけ（手が）鍵盤にいかないから、そこをはずしちゃってるんじゃないかなあと。気持ちは、すごくいい気持ちになってるけど…

山田：だからもう初見状態から脱しつつあるんだよね。みんなはまだ初見…竹村さんなんか常に初見状態で常に1回目の緊張を保ちつつ弾いてる様…遠山さんの場合、上田さんもそうだったけど、もう

初見の状態から離れてむしろピアノを弾くっていう…だから初見の時の手の動きと、曲を弾く時のタッチと当然それは違ってくるよね。手が飛ぶことも当然ありうる訳だし、本番で弾く時鍵盤を(ゼスチャーで) こう探って弾かんわねえ。初見から離れて行く…弾きやすい曲っていうこともあるんだろうけど。

細木：1回目の時にちょっとだけ拍…小節がズレましたよね。ズレたままできるのか、おおっと…(笑) あたしの場合だと間違ったら左手の方はもう切るんだけど遠山さんはそこでそのままいける、というのが右と左がきちんとこう…分かれてる…

山田：ああ、頭の中で…

細木：ちゃんと独立してきちんとできてる。私はどっちか切ってしまうんですけど。

山田：やっぱ管楽器は旋律人間なんだよ。

実験第3日 / 1月22日

被験者1：細木千裕

山田：どうでした？

細木：大分慣れてきたんで、ちょっと間違えるのにも慣れて来て、いちいち間違えてもヘコまないっていうか、始めからドンドン…あまり気にせず次へ…

山田：遠山さん、どうだった？聴いた感じでは？

遠山：私だったら弾けない所は Adagio で、弾ける所は Allegro でごまかしますけど。

山田：(細木さんは) ずっと in tempo で弾いていたと…ちょっと集中力が途中で切れてなかった？

細木：はい。多分切れてると思います。

山田：1回目の最初なかなかいいセン行き始めたかなあと思ったんだけど、途中からなんとなくこう…気が抜けて来て…で2回目はもう…なんか抜けっぱなし…で3回目から持ち直して来て、3回目の途中から随分よくなったなあっていう感じ。

細木：なんかこう…やり出したらさっきまでの疲れがド～ッと、こう…(笑)…来たって感じで。3回目の最後の方は…最後3段位になった時に…「もう最後だからちゃんと弾かなくちゃ」って…最後の最後で…

山田：終わりの方がよかったね。

細木：いつも最後が弾けないから、最後だけでも思っで。確かに2回目は。ちょっとポーッと…

山田：心ここにあらずというか…

細木：なんかこう、客観的に、1回目の途中くらいで「あ、あたし楽譜見てる量が少ないなあ…」って思ったんですよ。1小節位しか見てなくて、だから次どんどんどん…間違うんだなあ…と思いながら弾いてた時もあります。

山田：だから…弾くことに集中してないなっていう感じはすごくあったね。3日目という感じではどう？

細木：2日目の時は「あれ、私、この間弾けなかったのにちょっと弾けるわ」って思ってたんです…でも今日はもう、「…こんな曲だったっけ」ってすっかり抜けてて、指も「あ、こないだここ弾けてたのに」ってところが弾けなくなっているところがありました。

山田：それは(日の)空き方の問題かねえ。水木金で(2日目は)中1日しか空いてなかった金土日月火で、中3日空いてるもんね。この差は大きいのかな？

被験者2：藤井裕子

山田：首をかしげているけど、どうだった？

藤井：えーっと、1回目は結構いけるなあ、と思って先見ずに、ちょっとずつ細かく丁寧に見て行こうと思ったら、それができたんですけど、先を見なさすぎて手がついていかなかった。

山田：細かく見るっていうのは？ていねいにちゃんと見ようって感じ？

藤井：そう、ひとつひとつをちゃんと弾けるように…流れじゃなくて細かい小節で、例えば1小節だけとかを見て行く…で、それでフェルマータまでは成功した…ピアノと指がちゃんとついていったんですけど、あまりにも…その場所場所だけしか見てなくて、こう、飛ぶ時にそこに手がついていってなかった。で、1回間違えると、指番号とかグチャグチャになったし、そしたらもう…全然…やっぱり私はちょっと…動揺はするかなあと。

山田：指番号はやっぱ気をつけて弾いてる？

藤井：気をつけて弾いてるつもりなんですけど、音(音符)だけしか見えなかったら自分の好きなとこに行くから間違ってしまう…指番号をみるとどうしても目の位置が指番号だけに私は行ってしまふから、左手が見えなくなったり…するなあと思いました。

山田：なるほどね。あと、3日目ということではどういう感じでした？

藤井：曲に対する集中力は完全に抜けてるなあと思いました。もう明らかに曲を知ってるっていうのが…細かい所までは覚えてないんだけどイメージは知ってる…

山田：安心感みたいな？

藤井：安心感があるからまた楽譜をちゃんと見ない。

山田：あまり「弾けない」っていうような感覚はない？「こんなもんかな」みたいな感じ？

藤井：多分、これ、もうちょっとテンポを落として弾い

たら、ちゃんと弾けるのになあ、って。

山田：テンポは結構速かったよね。竹村さんどう？

竹村：おっしゃってたみたいに1回目よりも2回目の方がテンポも上がっていたし、なんか、でも楽譜は追ってるんじゃないかな、指はついていってないけど目はちゃんとついていってるなあ。

細木：1回目の時はすごく…始めの部分は音もしっかりしてたから、「あ、ゆうちゃん今日すてき」と思って聴いてたんですけど、あの、私もそうなんですけど彼女も、1日目のころから間違えてるところはやっぱり3日目のころまで引っぱってる。

山田：まあ、(練習せずに)単純にくり返してるだけだからね。注意力だけじゃ(正しい音に)戻らないんだろうね。間違えてる所ってやっぱり取り出して…遠山さんどうでした？

遠山：うーん結構今日は調子がいいんじゃないかなあ、という感じはしましたけど。

山田：そうね、僕が見た感じだと…藤井さんて弾き出す前に時間をかけるね。それは特別指導されてるとか普段から気をつけてる？ふつう(楽譜が)渡されたら最初にひととおり見ましようとはよく言われるけれども。

藤井：もう、間違えたくない！っていうのがあるんです。あまり効果はないかなとは思んですけど。ただ確認したい、音が出せないから確認したい…多分そういうのがあるんじゃないかなと思います。

山田：だから…ちょっと一生懸命見過ぎてるかなっていうのがあったかな。やっぱり、(楽譜を)見るんじゃなくて眺めるっていうのが必要だと思うのね。結局音符1個1個見たって弾けないし、やっぱり、初見がうまくいってるっていう時は、パターンとして(音符が)かたまりで(目に)入ってくるよね。

被験者3：竹村佳子

山田：どう？自分でやった感じ？

竹村：イントロダクションの所がいつも毎回音が違って、何をやっているのか(楽譜を)見てもよくわかんなかったのと、速い所をちゃんと弾こうと…32分音符をちゃんと弾けるようにと思って、初めに弾く前に見てみたんですけどでもやっぱり弾けなくて…なんか、くやしい。

山田：その…3日目ということではどう？1日目、2日目と比べた感じとしては？

竹村：1日目、2日目は…

山田：と比べて弾けるか弾けないかという…

竹村：3日目の方が弾きやすい…

山田：あと…目の配り方について、前回、前々回ちよっ

と注意と言うかコメントしたよね。あれのことで少し気にかかった？弾きながら…それは全然なかった？

竹村：気にしてます…はい。

山田：1回目2回目、随分それを気にしてるのかなっていう感じだったのね。だから先を読もう読もうって…フレーズを越えて先を読もうって意識がすごく感じられたんだけど、音楽までがフレーズを飛び越えちゃってブルドーザー弾きになってた。

竹村：はい。

山田：で、3回目になって、またいつもの目の配り方に戻って…そしたらまたフレーズが見えてきた。フレーズの終わりできちんと終わって、次の新しいフレーズが始まる。あまりそれは自覚はなかった？例えば3回目ではもう目の配り方のことはもう忘れてたとか。

竹村：ああ、忘れていました。落ち着いて弾こうと思って…

山田：音楽的には3回目が一番よかったね。ミスタッチはいろいろ…3回目はかえって多かったような気がしたけど。細木さんどう？

細木：私も先生がおっしゃられたように、3回目になった時の顔がいつもの竹村さんが譜面見ている時の顔っぽいなあと思って。1回目2回目はまだちょっと…朝早いし、まだちょっとエンジンがかかってないのかなあ、と。あと、1日目の時の曲へ入る時の入り方と今日の入り方と多分、違いがあったと思う…あったんですか？

竹村：あー。全部ちゃんと弾こうと。曲の最後だから全部ちゃんと弾きたいなあ、みたいな。

藤井：細木さんのと関連するんですけど、1日目の、一番最初に弾き出す(までの)時間と、2回目3回目の間の時間がどんどん短くなって、もう2回目と3回目の間はもうほんとにすぐ3目に行くみたいな、その間隔がどんどん縮まってゆく…

山田：ああ、それはあったね。

被験者4：遠山 真

山田：どうですか。1日目、2日目、3日目という風に比べると。

遠山：やっぱり弾けない所は弾けないなあって。

山田：全体としてはどう？たとえば2日目は1日目と比べると当然弾けてるわねえ。2日目と比べてみた感じでは？

遠山：弾ける所は余裕があります。

山田：弾ける所は余裕がある。弾けない所はやっぱり弾けない…藤井さんどう？

藤井：えっと、2回目は表現とかもすごい…一番よかったかなあ…と思いました。あと、前半はすごいノリもよくなってほんと踊れるような感じがして、ああ、もう本当に理解できてるんだなあっていうのが分かったんですけど、途中の調性が変わる所から弾き方が同じようになって、もう楽譜から全然目が離れなかったから、ああ、なんか理解できてないのかなあ…っていうのがすごい伝わって

細木：3日目は音もしっかりしていて、よく弾けていて…どうしても弾けない所がありますよねえ。タン、タラララン…あそこは心の中はどうなんですか？ちょっと動揺があるんですか、それとも、もう私のように「ああ、また弾けないわ」ってちょっと心軽く…どうなんですか？

遠山：いやもう、弾けない所はもう最初から捨てるっていうクセがついてるんで…

山田：それは細木さんといっしょかな。僕が見た感じ、音楽的には2日目の方が、好感が持てるような気がしたんだけど。1回目はエラく乱暴に弾いたよね。「ズン、チャ、チャ、ズン、チャ、チャ、」って。それはどう？自分ではどう感じてた？あんまり意識はない？

遠山：いや、体調的に前回の方が…

山田：なるほど。体調の問題もあるね。今日はあまり体調がすぐれない？

遠山：ええ、ちょっとあまり…

山田：ああそう。だから前はワルツのこう…軽やかな「ブンチャッチャツ」ってのが…今日は「ズン、チャン、チャン、ズン、チャン、チャン」なんとなくサラバンドが速くなった感じがあったかなあ。上田さんどうですか。

上田：1日目と2日目の差は大きくて、「おおっ」と思ったんですけど…

山田：「おおっ」てのはなに？

上田：なぜこんなに急激に上手になるんだろうと。で、2日目と今日の違いがそれほどわからなかった。

竹村：今日の3回目で、なんかこうやって弾こう、とか弾きたいなあとかいう変化みたいなのがありましたか？

遠山：いや、特にないですけど、まあ、弾けない所は弾けるようになりたいなあとか思いながらも、やっぱり弾けない所は捨てた方がいいのかなあとか…

山田：前回と比べてなんか、「こう弾きたい」っていうのが…見えなかった…かな？竹村さんはそのつもりでこういう質問した？

竹村：なんか前の方がノッてて…

山田：ノッてて、なんか「こう弾きたい」ってみたいない気持ちが伝わってきたよね。だから今日はなんと

なく、ブルドーザーのように目の前にある音符を処理して行くみたいない感じがあって、どうしてかな…って。(みんな)全体的にちょっとそういう傾向が…今日はあったかのような…気がしたんだけど。(笑)「音楽的なことはさておき、とりあえず弾いてやれ」みたいない。なんかスポーツ的な喜びにみんな走り出したんだらうかって。(次の準備を待ちながら)1回1回前のコメントに(次の人が)反応しちゃうよね。やっぱ1人づつ、密室で…誰も何もコメントせずに。実験のやり方自体についても反省する必要があるね。

被験者5：上田泰子

山田：はい、どうでしたか。

上田：えーとー。弾きやすかったです。

山田：1日目、2日目と比べて。その点一番…3日間つなげてだんだん上達して行ったという点では上田さんが一番…こう、よくなっていっているって感じかな？3回を比べた時に。2回目でグーッと上がっていた人もいたけど。他には何か？

上田：2日目の時はそうでもなかったんですけど、今日は弾く前に次の和音がわかってるというか、次の音が(頭の中で)鳴ってる…

山田：ああそう。やっぱり、上田さんて、楽譜を見て弾くタイプよりは、暗譜してっていうか、さらっていくときも頭で覚えていく方と手が上達していくって意味では、頭が先にいくタイプなのかな。曲の記憶が。

上田：今までのだと、暗譜するのが速いと言う訳じゃないんですけど、暗譜をしてしまってから、やっとなんかこう…「えーと」って考える…

山田：暗譜の方が先に出来上がっちゃってもっと弾けるようになるうって作業が後に残っちゃう。

上田：暗譜が先です。

山田：竹村さん、(君は)どう？

竹村：両方一緒。

山田：それ、人によるよね。先に弾けるようになってくると、なかなか覚えられない人と、曲は覚えられちゃうんだけど、手がなかなかついていかないタイプと。竹村さんは両方大体同じスピード？

竹村：いや、覚えたいんですけど。覚えた方が弾きやすいんじゃないかってあこがれみたいなのがあるから。でも頭に入らない。

山田：(上田に)テンポはどどんと上がってきてない？1日目2日目3日目と。

上田：そうかも知んない。

山田：いや、もしかすると2日目の方がちょっと落ちてたかな？今のテンポは…自分ではあれがいいと

思ってやっってる？

上田：このくらいかなあ…と。

竹村：なんか、1日目と比べて手の動きが弾く前に、手がこう…その場所に…目が見る前にいっちゃってるんじゃないかなあと思って見てました。

山田：なるほど。ほとんど目も使わずに弾いているような感じ。他は？

細木：今日の1回目は結構サラッと弾いてるんで、ああ、今日は結構サラ～っと…もう早くこの場を終わりたいのかなあ（笑）…と思ったんですけど、やっぱりでもそれは慌てて…で、2回目の出だしの所も結構さっさと入ってたんだけど、だんだんだんだん曲に入り込んで…って感じがしました。

藤井：間違ふ所はほんとにかなり少ないんですけど、間違ふ所は目が楽譜にいつてる。上田さんてすごい…楽譜と鍵盤に目が、同じようなテンポっていうかで、同じ位のテンポで見てるんですけど…

山田：テンポっていうか割合…頻度みたいな。

藤井：頻度が同じような感じなんですけど、間違ふ所は楽譜を見てる…かなってちょっと思いました。

山田：やっぱり頭に入っていないっていう所に意識があつて…かな？やっぱり弾けない所は弾けないってことなのかな。結局練習しないで1回1回通すだけだから…。

実験上の反省点

最初、とりあえずやってみようといった気持ちで始めたので、インタビューの観点が定まっていなかった。例えば質問表を用意してそれに沿って質問をすすめるとか、実験の都度レポートを提出してもらおうといった方法も考えられる。より客観的なデータをとるなら、集団ではなく一人一人を見るという方法もあっただろう。ただ、初見視奏のレッスンという点では各自の癖や問題点をお互いに知ることができて意義あるものになっていたように思われる。

客観的な上達度の採点

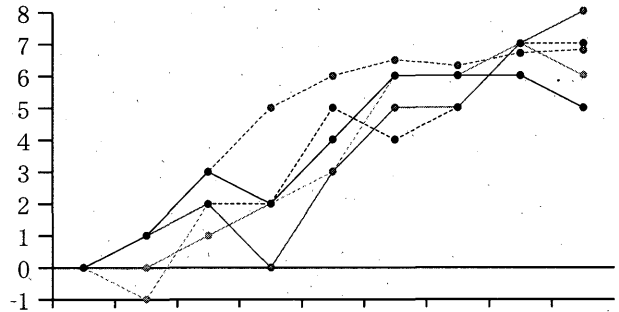
さて、以上のような実験をしたところで被験者ごとにビデオを編集した。そのビデオを今度は全員で観ながら、その上達度を採点した。以下に採点結果とそれをグラフ化したものを掲げておく。採点のしかたであるが、1日目の1回目を0点とした上で、上達すれば加点、下降すれば減点とした。また原則として1点刻みの得点としたが、たとえば大幅な上達が見られる場合は3点アップ、微妙と思われる場合には小数点以下1位（例：3.7点）といった表記も可とした。なお被験者本人も採点者とし

て参加してもらった。ただし、ここでの上達度はあくまでビデオを見た採点者の「感じ」であり、特に楽譜と見比べてミス数を指摘するなどということはしていない。

上田採点結果

評価者	1/1	1/2	1/3	2/1	2/2	2/3	3/1	3/2	3/3
上田泰子	0	1	3	2	4	6	6	6	5
竹村佳子	0	1	2	0	3	5	5	7	8
遠山 真	0	0	1	2	4	6	6	7	6
藤井裕子	0	1	2	2	5	4	5	7	7
細木千裕	0	1	3	5	6	6.5	6.3	6.7	6.8
山田啓明	0	-1	2	2	3	6	6	7	6

上田泰子／採点結果



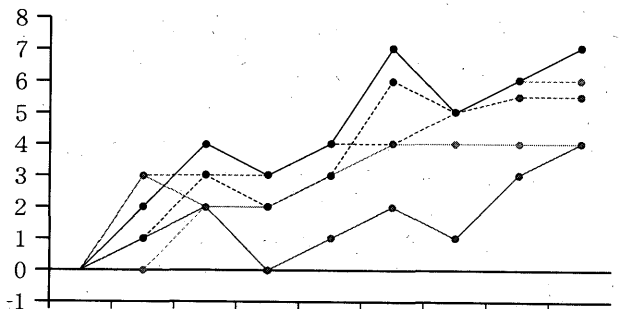
表、およびグラフの分析：

評価にバラつきがみられるものの、1日目の3回目と2日目の1回目との間で下行あるいは横ばいがみられる。また2日目で非常に上達するが、2日目～3日目が横ばいになっている。また3日目では上達が頭打ちあるいは下行した観がある。

竹村採点結果

評価者	1/1	1/2	1/3	2/1	2/2	2/3	3/1	3/2	3/3
上田泰子	0	2	4	3	4	7	5	6	7
竹村佳子	0	1	2	0	1	2	1	3	4
遠山 真	0	3	2	2	3	4	4	4	4
藤井裕子	0	1	3	2	3	6	5	6	7
細木千裕	0	3	3	3	4	4	5	5.5	5.5
山田啓明	0	0	2	2	3	4	5	6	6

竹村佳子／採点結果



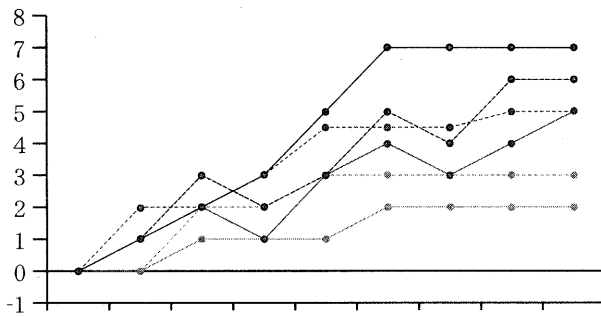
表、およびグラフの分析：

1日目、2日目とも2～3回目の上達度が顕著であり、また2日目の1回目、3日目の1回目とも、前回の最後の視奏より下降していることが読み取れる。

遠山採点結果

評価者	1/1	1/2	1/3	2/1	2/2	2/3	3/1	3/2	3/3
上田泰子	0	1	2	3	5	7	7	7	7
竹村佳子	0	1	2	1	3	4	3	4	5
遠山 真	0	0	1	1	1	2	2	2	2
藤井裕子	0	1	3	2	3	5	4	6	6
細木千裕	0	2	2	3	4.5	4.5	4.5	5	5
山田啓明	0	0	2	2	3	3	3	3	3

遠山 真／採点結果



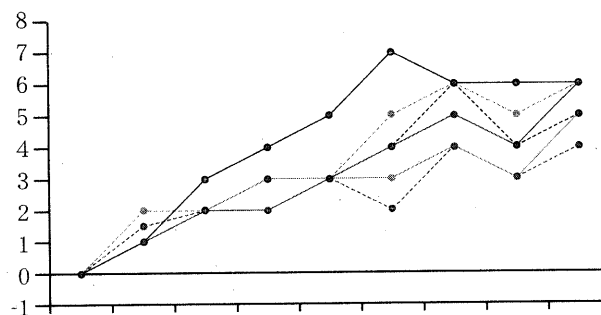
表、およびグラフの分析：

遠山で特徴的なのは2日目の3回目以降、得点が上がっていないことである。このことは初日のインタビューで山田が指摘したとおり、本人にとって課題が易しすぎたことが関係していると思われる。

藤井採点結果

評価者	1/1	1/2	1/3	2/1	2/2	2/3	3/1	3/2	3/3
上田泰子	0	1	3	4	5	7	6	6	6
竹村佳子	0	1	2	2	3	4	5	4	6
遠山 真	0	1	2	3	3	3	4	3	5
藤井裕子	0	1	2	3	3	4	6	4	5
細木千裕	0	1.5	2	2	3	2	4	3	4
山田啓明	0	2	2	3	3	5	6	5	6

藤井裕子／採点結果



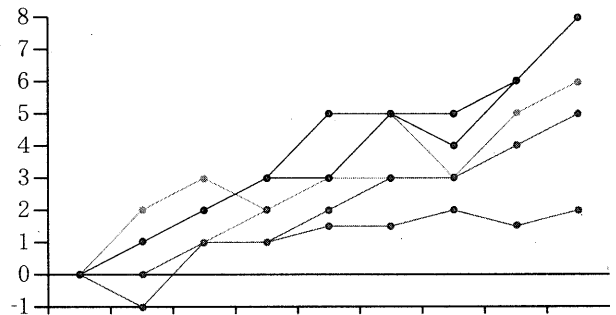
表、およびグラフの分析：

藤井の場合、日が変わって得点が下がるはずのところでも得点が上がり続けていることが特徴付けられる。他の被験者に見られない特徴がもうひとつある。3日目の2回目のところで得点が下がっているのである。インタビューを読み返してみると、3日目の2回目の演奏はテンポを上げたいことが分かる。この箇所得点が下がっているのはそのことが大きく関係していよう。

細木採点結果

評価者	1/1	1/2	1/3	2/1	2/2	2/3	3/1	3/2	3/3
上田泰子	0	1	2	3	5	5	4	6	8
竹村佳子	0	0	1	1	2	3	3	4	5
遠山 真	0	0	1	2	3	3	3	4	5
藤井裕子	0	1	2	3	3	5	5	6	8
細木千裕	0	-1	1	1	1.5	1.5	2	1.5	2
山田啓明	0	2	3	2	3	5	3	5	6

細木千裕／採点結果



表、およびグラフの分析：

細木の場合特徴的なのは3日目で非常に上達している点である。全体の傾向としてはやはり日を改めるたびに出来はやや下行、あるいは横ばいを示している。

結論と反省

実験としてあまり厳密とはいえないが、以下のことは明らかになったといえよう。

1：1日目の1回目よりも2日目の1回目の方が、また2日目の1回目よりも3日目の1回目の方が上達していることが客観的に明らかにされた。

2：ただ、1日目の3回目よりも2日目の1回目、また2日目の3回目よりも3日目の1回目の出来が下回るか横ばいになることが多いことも改めて確認された。

(ただし、藤井のように例外もみられる。)

3：実際は全くの初見の時よりは上達しているのに、上記2の理由により初日より下手になった感じられる。あるいは曲のイメージが出来てから弾くことでもどかしく感じられる、といったことが生じるのではないかと推測される。

Forschung über Fortschritte im Blattspiel am Klavier

Hiroaki YAMADA * , Yasuko UEDA ** , Yoshiko TAKEMURA ** ,
Makoto TOYAMA ** , Yuko FUJII ** and Chihiro HOSOKI **

(Stichwörter: Blattspiel, Solfege)

Wenn ein Pianist ein neues Stück erlernt, macht er im allgemeinen die Erfahrung, daß er dieses Stück am zweiten Tag eher schlechter spielt als am ersten, wenn er zwischen erstem und zweiten Tag einige Zeit verstreichen läßt.

Das meinen etliche Pianisten. Ist es wirklich so? Die Teilnehmer von "Studies in Solfege" haben drei Experimente an drei verschiedenen Tagen durchgeführt.

Analysen von Videoaufnahmen und Befragungen haben ergeben, daß man beim Primavistaspiel am zweiten Tag besser spielt als am ersten. Auch spielt man am dritten Tag besser als am zweiten.

* Bereich-Musik der Kunstabteilung in Naruto pädagogische Hochschule

** Magister-Kursus in Naruto pädagogische Hochschule